

活動方針1

声かけあいさつ運動の推進

評価①

市	事業・取組	声かけあいさつ運動の推進 【学校教育課】	青少年育成関係団体などの地域団体との連携を図り、登下校時における見守り活動やあいさつ運動を実施し、児童生徒の見守りを行う。
	事業概要	「誰(何)を」「どうする方法で」「どうしたか」「対象」「手段」を記入する ※懇談会の意見があれば反映させる 児童生徒の見守り活動に関心がある方々を「スクールガード(学校安全ボランティア)」として各小学校区ごとにできる限り配置し、見守り活動を行うとともに、あいさつや声かけなどを行った。令和5年度も登下校見守り隊として多くのボランティアの方々に協力していただき、無理なく、できるときにできるやり方で見守り活動が実施できた。また、タスキや腕章、ベスト、帽子、横断旗といった物品を配付することで、円滑に活動が進められた。	
	課題	人員の確保について、地域差が見られる。	
	今後の取組方針	登下校見守り隊(スクールガードを含む)の活動を学校教育課と生涯学習課が別々に進めてきた経緯がある。そこで、令和6年度からは、生涯学習課が担当する「とちぎ未来アシストネット」に統合して、学校支援ボランティアの活動としてを継続することで、学校と地域とがさらに深いつながりを持ち、これまでに以上に連携を図れるようにしていく。	
市	事業・取組	高齢者ふれあい相談員事業 【高齢介護課】	高齢者ふれあい相談員が1週間に1回以上ご自宅を訪問し、安否の確認や相談に応じる。また、毎月ふれあい通信を配布する。
	事業概要	「誰(何)を」「どうする方法で」「どうしたか」「対象」「手段」を記入する ※懇談会の意見があれば反映させる 市内在中の70歳以上のひとり暮らし及び高齢者世帯に対し、定期的に訪問し安否確認や相談・助言などを行った。また、市が毎月発行する「ふれあい通信」を届けた。	
	課題	ふれあい相談員の確保が難しくなっている。	
	今後の取組方針	支援の必要な高齢者が孤立することがないよう、地域福祉の充実とコミュニケーションの一助となるよう、制度を継続するとともに更なる充実を図っていく。	
市	事業・取組	地域支え合い活動 【地域包括ケア推進課】	全世代型地域包括ケアシステムでの取組施策の一つとして自治会等による見守り活動などを行う「地域支え合い活動」の普及に取り組んでおり、①地域支え合い活動推進条例に基づく名簿の提供、②地域支え合い活動スタートアップ支援補助金の交付を行う。
	事業概要	「誰(何)を」「どうする方法で」「どうしたか」「対象」「手段」を記入する ※懇談会の意見があれば反映させる 地域の人々が、ひとり暮らしの高齢者や障がい者などを日頃から見守る「地域支え合い活動」を推進するため、地域支え合い活動対象者へ名簿登録調査を行い、名簿を作成・提供した。	
	課題	地域支え合い活動に取り組む自治会が少なく、周知方法等の見直しが必要であるとともに、名簿の作成方法や内容等の見直しも必要である。	
	今後の取組方針	より多くの自治会が地域支え合い活動に取り組めるよう、モデルとなる自治会の協力を得て作成したDVDの貸出や出前講座等を通してPRしていきたい。また、各地域の生活支援コーディネーターと協力し、何らかの見守り活動を実施している自治会を把握し、併せて地域支え合い活動について説明していきたい。	

社協	事業・取組	「声かけあいさつ運動」の推進	市社会福祉協議会広報誌への記事を定期的に掲載するとともに、市や関係機関・団体などと連携し、市全域の「声かけあいさつ運動」を推進する。
	事業概要	「誰(何)を」「どういう方法で」「どうしたか」「対象」「手段」を記入する ※懇談会の意見があれば反映させる 年6回発行の広報紙ふくぴーだよりに掲載し、「声かけあいさつ運動」を推進した。 また、地区懇談会等で、日頃からのつながりや気かけあいが大切であることを促した。	
	課題	地域内で日頃からのつながりを気かけあい、声かけあいさつから始まる地域のお宝を更に広める必要がある。	
	今後の取組方針	引き続き、広報紙ふくぴーだよりに掲載し、「声かけあいさつ運動」を推進する。 地域内で、日頃からのつながりや気かけあい、声かけなど地域のお宝をテーマとして地区懇談会等でグループワークを行い「声かけあいさつ運動」を推進する。	

評価②

数値目標		R02	R03	R04	R05	R06	自己評価	点数	評価基準	
市	スクールガード配置数(人)	目標値	2,384	2,464	2,544	2,624	2,650	4	4	順調に進んでいる
		実績値	2,364	2,248	2,204				3	概ね順調だが不十分な点が少しある
社協	ふくぴーだより「声かけのスローガン」掲載回数(回)	目標値	5	6	6	6	6	4	2	実施されている部分もあるが、不十分な点が多い
		実績値	6	6	6	6			1	実施方法も含め改善が必要である

評価③

【取組における成果】【活動方針の実現に向けた課題・方針】	
市	<p>【取組における成果】</p> <p>スクールガードを各小学校区ごとに配置し、見守り活動を行うとともに、あいさつや声かけなどを行ったことで地域で顔を合わせてのつながりができたことは成果として挙げられる。</p> <p>【活動方針の実現に向けた課題・方針】</p> <p>登下校見守り隊(スクールガードを含む)の活動を「とちぎ未来アシストネット」に統合して、学校支援ボランティアの活動としてを継続することで、学校と地域とがさらに深いつながりを持ち、これまで以上に連携を図れるようにしていく。</p> <p>※評価②スクールガード配置数は、R5に名簿の見直しを行った際に個人情報関係で活動はするものの名簿記載を拒んだ人がいるため、正確な数値を把握することができなくなったため評価対象外とする。</p>
社協	<p>【取組における成果】</p> <p>地区懇談会や各種事業等で、つながりや気かけあいの大切さを促すことができた。岩舟地域協議体で行われている「あいさつ運動への強化」は、地域の見守り活動が継続されている。</p> <p>【活動方針の実現に向けた課題・方針】</p> <p>日頃からのつながりや気かけあい、声かけなど地域のお宝をテーマとして地区懇談会等でグループワークを行い「声かけあいさつ運動」の大切さを促し、また多機関と連携・協働し、全域の声かけあいさつ運動を推進していく。</p>

評価④

推進懇談会評価	
<p>・高齢者ふれあい相談員について、任期1年ということもあり、人選に苦慮している実情があるようだ。民生委員児童委員の任期に合わせて3年ごとの委嘱とすることはできないか検討していただきたい。</p> <p>・高齢者実態調査について、新規を除き3年ごとの更新に変更となったが、高齢になればなるほど、毎年状況が変わるので、3年に1度の更新では状況把握は困難である。大変な作業であるが、それだけの意味がある調査であることから、更新頻度について、改善できないか検討していただきたい。</p>	
活動方針の実現に向けた現状の評価	④ ・ 3 ・ 2 ・ 1

評価①

市	事業・取組	福祉サービスの実施 【福祉総務課】	子ども、障がい者、高齢者などの各分野の計画を全世代一体の考えに基づき定期的な見直しを行い、各種福祉サービスを実施する。
	事業概要	「誰(何)を」「どういう方法で」「どうしたか」「対象」「手段」を記入する ※懇談会の意見があれば反映させる 「栃木市障がい者計画(第4期)」「栃木市障がい者福祉計画(第7期)」「障がい児福祉計画(第3期)」及び「栃木市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画(第9期)」の策定が完了した。令和6年度は上位計画である地域福祉計画・地域福祉活動計画の策定に取り組む。	
	課題	本計画と各福祉分野の計画との整合性はとれてきているが、紐づいていない部分もある。	
	今後の取組方針	重層的支援体制整備事業を地域福祉計画・地域福祉活動計画に盛り込み、各福祉分野の部・課を超えた施策の連携体制を構築すると同時に、各課職員の理解の深化を図る。	
市	事業・取組	職員の資質向上 【地域包括ケア推進課】	福祉サービス事業者の指導監督等の事務を行う市職員の専門的知識の習得やスキルアップを図るため、研修を行う。
	事業概要	「誰(何)を」「どういう方法で」「どうしたか」「対象」「手段」を記入する ※懇談会の意見があれば反映させる 福祉サービス事業者等への研修の実施や、市職員の専門的な知識習得のため、様々な分野の研修会等へ参加し職員の知識向上を図るとともに、福祉サービス事業者等と情報を共有し、サービス向上を図った。 また、全庁の職員を対象に認知症サポーター資質向上研修を実施し、更なる認知症への理解と接遇の向上を図った。	
	課題	専門的知識の習得に偏らず、幅広い分野の知識習得を図ることにより、指導監督の機能強化を図るとともに、複雑化・複合化した課題を抱えた市民への対応力の向上を図る必要がある。	
	今後の取組方針	様々な分野における知識習得やスキルアップのための研修会等を開催し、各分野での認識を共有する。	
市	事業・取組	関連協議会等との連携 【地域包括ケア推進課】	あつたかネット、特養養護連絡協議会、在宅介護サービス事業所連絡会、介護支援専門員連絡協議会との連携、下都賀郡市医師会、とちぎメディカルセンター等の医療関係者との連携をしていく。
	事業概要	「誰(何)を」「どういう方法で」「どうしたか」「対象」「手段」を記入する ※懇談会の意見があれば反映させる あつたかネットと協力し、介護人材の確保を目的とした生活サポーター(あつたかいご員)養成講座を開催したほか、医療・介護の関係者との連携のもと、在宅医療・介護連携推進事業により市民向け講演会や多職種研修会を開催し、市民への周知啓発や専門職の専門的知識の習得を図った。	
	課題	・複雑化・複合化した課題に対応するためには、関連協議会等との密接な意見交換や連携による事業の検討が必要である。 ・協議や事業実施にあたっては、コロナ禍以降定着しつつあるオンラインでの事業実施等も含め、より効果的な方法を検討していく必要がある。	
	今後の取組方針	・関連協議会等との連携を強化し、医療や介護分野における課題等について、共有を図り、在宅医療・在宅介護の充実と質の向上に努める。 ・オンラインも含めて協議や実施方法を工夫し、関連協議会等との密接な連携のもと、会議や事業を実施していく。	

社協	事業・取組	ふれあい在宅福祉サービスの実施	市民の助け合い精神を基礎とした会員制のサービス。協力会員としている市民が、掃除、洗濯、買物などのお手伝いをする住民参加型の在宅福祉サービス事業を実施する。
	事業概要	「誰(何)を」「どう方法で」「どうしたか」「対象」「手段」を記入する ※懇談会の意見があれば反映させる 社会福祉協議会が窓口となって、地域にお住まいの方が地域で支援が必要な方に対して行う住民参加型のたすけあい活動で、主に、食事の準備や掃除・洗濯、買い物、外出の付き添いなどの家事支援を行った。 令和5年実績 協力会員92人 利用会員117人 派遣回数1,176回	
	課題	利用会員、協力会員ともに増加傾向にあるが、利用頻度が増加してきていることから、更に協力会員を増やす必要がある。また、地域によって事業の稼働率がバラバラである。	
	今後の取組方針	広報紙ふくぴーだよりに継続的に特集を掲載、ホームページ、フェイスブックに周知をすることで、認知度の向上を図る。 ふれあい在宅福祉サービスのチラシを地域福祉サポーター養成講座や地区懇談会参加者に配布することで、事業を知ってもらい、協力会員として担い手を養成していく。	

社協	事業・取組	福祉機器等貸出事業の充実	車いす、車いす移送車の貸し出しなどを行う。
	事業概要	「誰(何)を」「どう方法で」「どうしたか」「対象」「手段」を記入する ※懇談会の意見があれば反映させる 車いす貸出・・・車いすを必要とする方の屋内外移動の負担軽減を図ること目的に車いすの貸し出しを行った。 車いす移送車貸出・・・車いすを利用する高齢者や身体障がい児者の外出(通院、外出等)の負担軽減を図ることを目的に車いすのまま乗車できる車両の貸し出しを行った。 令和5年度実績 車いすの貸出 335回 車いす移送車貸出 351回 本所、各支所で貸し出しを行っている。	
	課題	車いす移送車(貸出無料 ガソリン代のみ負担)を本所および大平支所それぞれに整備しているが、認知度がまだまだ低いところがある。	
	今後の取組方針	一度利用すると、リピートする利用者が多い。より一層、広報紙ふくぴーだよりに掲載することやチラシ等を活用しながら認知度の向上を図る。	

社協	事業・取組	事業所交流・学習会の開催	地域共生社会の実現に向けて、地域福祉を担う介護保険事業所並びに障がい福祉サービス等事業所が定期的に自由に集まれるサロンを開催する。
	事業概要	「誰(何)を」「どう方法で」「どうしたか」「対象」「手段」を記入する ※懇談会の意見があれば反映させる 地域共生社会の実現に向けて、地域福祉を担う介護保険事業所並びに障がい福祉サービス等事業所が定期的に自由に集まれるサロンを開催することで、事業所間の情報共有と相互理解による連携強化を図っている。令和5年度は全4回開催し78人の参加であった。	
	課題	参加者自身の事業参加後の効果(参加者同士で情報交換ができるようになった等)について効果測定をしていく必要がある。	
	今後の取組方針	参加者を対象としたアンケート調査等を行いながら、事業効果の可視化を進めていく。	

評価②

数値目標			R02	R03	R04	R05	R06	自己評価
市	地域包括ケア推進会議の開催(回)	目標値	2	3	3	3	3	3
		実績値	2	2	2	2		
市	在宅医療・介護連携推進会議の開催(回)	目標値	6	6	6	6	6	4
		実績値	5	6	6	6		
社協	ふれあい在宅福祉サービス派遣回数(回)	目標値	339	380	420	460	500	4
		実績値	648	1,190	1,431	1,176		
	車いす貸出回数(回)	目標値	291	295	300	300	300	4
		実績値	235	280	302	335		
	車いす移送車貸出回数(回)	目標値	439	440	440	445	450	3
		実績値	402	451	406	351		
	事業所交流・学習会の開催数(回)	目標値	6	6	6	6	6	3
		実績値	2	0	0	4		

点数	評価基準
4	順調に進んでいる
3	概ね順調だが不十分な点が少しある
2	実施されている部分もあるが、不十分な点が多い
1	実施方法も含め改善が必要である

評価③

【取組における成果】【活動方針の実現に向けた課題・方針】	
市	<p>【取組における成果】 全庁の職員を対象に認知症サポーター養成講座を開催したこと、在宅医療・介護連携推進事業により市民向け講演会等を開催し、市民への周知啓発や専門職の専門的知識の習得を図ったことは成果としてあげられる。</p> <p>【活動方針の実現に向けた課題・方針】 それぞれの事業に加え、様々な分野を一体的に考えていく体制整備づくりが課題であるため、関連協議会等との連携を強化し、医療や介護分野における課題等について、共有を図り、在宅医療・在宅介護の充実と質の向上に努める。</p>
社協	<p>【取組における成果】 インフォーマルサービスの一環として住民参加型のたすけあい活動を実施している。フォーマルサービスの狭間を埋めるサービスとして一定の効果がある。</p> <p>【活動方針の実現に向けた課題・方針】 サービス利用稼働に格差があることから、地区懇談会でのサービス紹介や広報紙及びホームページ、フェイスブック等を活用し、幅広く周知し全市にわたってサービスを浸透させていく。</p>

評価④

推進懇談会評価	
<p>・車いす移送車、在宅医療のニーズは間違いなく存在する。周知の仕方をさらに工夫し、引き続き、ニーズに沿うような活動を進められたい。</p>	
活動方針の実現に向けた現状の評価	④ . 3 . 2 . 1

活動方針3

生活困窮者等への支援の充実

評価①

市	事業・取組	子どもの貧困対策推進計画に基づく事業の実施【福祉総務課】	すべての子どもが夢と希望をもって成長できる社会の実現を目指して、子どもの貧困対策を総合的に推進するため、各種事業を実施する。
	事業概要	「誰(何)を」「どういう方法で」「どうしたか」「対象」「手段」を記入する ※懇談会の意見があれば反映させる 関係機関と連携し、貧困リスクの高い方の早期発見、家事・子育ての支援、学習環境の整備・学びを支える体制づくり、就労相談や資格取得の支援、各種手当や助成制度等の活用促進、教育と福祉、保健医療が一体となった支援体制の整備を図った。	
	課題	各種事業について概ね目標どおりに実施できているが、事業間のつながりや連携が十分であるとは言い切れない。	
	今後の取組方針	ヤングケアラーについて、こども家庭センターをはじめ関係機関と調整して、実態把握をする。栃木市子ども・子育て支援事業計画と整理統合するにあたり、関係機関と調整を行う。	

社協	事業・取組	生活困窮者自立支援事業	生活困窮者が困窮状態から早期に脱却し、社会的・経済的に自立する事を目的に、支援対象者の個々の状態に応じた包括的な相談支援事業を実施する。
	事業概要	「誰(何)を」「どういう方法で」「どうしたか」「対象」「手段」を記入する ※懇談会の意見があれば反映させる 借金や家族問題など、さまざまな理由で経済的に困りの方の相談を受け、一緒に考え継続的にサポート、伴奏型の支援を行った。自立相談支援事業、子どもの学習・生活支援事業、家計改善支援事業、就労準備支援事業を実施した。令和5年度実績 ・自立相談支援事業 新規相談受付人数 261人 プラン作成人数13人 ・学習支援事業 毎週土曜日(計39日間) 登録者51人 延べ参加人数792人	
	課題	困窮に至るまでのプロセスが複雑であるため、対応に苦慮することが増加してきている。また、新型コロナウイルス特例貸付のフォローアップ事業に伴い対象世帯からの相談からの相談が増加する見込みがある。	
	今後の取組方針	多機関及び社会福祉協議会内部の横断的な連携を図る。また、増加する見込みのある相談に対して支援体制の構築を図る。	

社協	事業・取組	緊急一時支援事業	生活困窮者等で一時的な困窮状態にある者に対して、生命の維持及び自立に向かうための必要な支援を行う。また、併せて、住民相互の支え合いを促進するため、寄付を募集し、給付事業等制度の拡充を図る。
	事業概要	「誰(何)を」「どういう方法で」「どうしたか」「対象」「手段」を記入する ※懇談会の意見があれば反映させる 貸し付け相談等で一時的な困窮状態であり、生命の維持及び自立に向かうために食糧支援が必要な方に対し、米や缶詰等の食糧支援を行い、相談者との関係性を築き、相談支援を行った。令和5年度実績 支援件数 601件 各家庭に眠っている食品258件、日用品等47件の寄付を受け、くらしサポート事業に活用した。	
	課題	長期的な支援が必要な相談者が増加傾向にあり、食糧等の継続的な確保や保管場所の確保が課題である。	
	今後の取組方針	多機関と連携し、イベント等での食糧の寄付活動を行い、本事業の趣旨を理解者を増やしながらか継続的な食糧の確保を図る。 食べるものもないなどの相談者に対し、くらしサポート事業を活用し、関係性を築き、伴走型の相談支援を継続して行う。	

社協	事業・取組	各種資金の貸付・相談	生活福祉資金、社会福祉金庫(緊急的かつ一時的に生計の維持が困難になった世帯が対象)、高額療養費の貸付とその相談を行う。
	事業概要	「誰(何)を」「どう方法で」「どうしたか」「対象」「手段」を記入する ※懇談会の意見があれば反映させる 生活福祉資金、社会福祉金庫(緊急的かつ一時的に生計の維持が困難になった世帯が対象)、高額療養費の貸付とその相談を行い、生活再建の一助を担うため、貸付・相談を行った。 令和5年度 生活福祉資金貸付 計4件 社会福祉金庫貸付 40件 高額療養費貸付 21件	
	課題	コロナ特例貸付借り受け人に対するフォローアップ支援が開始したが、複雑な生活課題を抱えている対象者が多く、借受人の生活再建に向けた様々な支援が求められる。	
	今後の取組方針	相談者に対し、世帯の生活状況や収入状況等を聴取し、償還に向けた支援の必要性などを把握して支援に取り組んでいく。	

評価②

数値目標		R02	R03	R04	R05	R06	自己評価	
市	高等学校等進学者数(人)	目標値	7	4	1	4	10	4
		実績値	5	4	1	2		
社協	自立相談支援事業相談件数(件)	目標値	239	290	320	340	360	3
		実績値	159	156	271	261		
	自立相談支援・家計プラン作成件数(件)	目標値	28	33	35	38	42	2
		実績値	12	13	14	13		
	緊急一時支援事業支援回数(回)	目標値	309	360	400	430	460	4
		実績値	336	499	598	601		

点数	評価基準
4	順調に進んでいる
3	概ね順調だが不十分な点が少しある
2	実施されている部分もあるが、不十分な点が多い
1	実施方法も含め改善が必要である

評価③

【取組における成果】【活動方針の実現に向けた課題・方針】	
市	<p>【取組における成果】 関係機関と連携し、貧困リスクの高い方の早期発見等を教育と福祉、保健医療が一体となった支援体制の整備を図れたことは成果として挙げられる。</p> <p>【活動方針の実現に向けた課題・方針】 栃木市子ども・子育て支援事業計画と整理統合するにあたり、関係機関と調整を行うことが必要である。</p>
社協	<p>【取組における成果】 生活困窮者自立支援事業は、経済的な理由で生活に困っている方の、世代や属性に関係なく、相談を受け止め、伴走型支援を行っており、包括的支援体制構築と地域のセーフティーネットの一翼を担っている。 学習支援事業は、貧困の連鎖を断ち切るため、学習や進路相談を実施し、本人の希望する進路実現に貢献している。</p> <p>【活動方針の実現に向けた課題・方針】 新型コロナウイルス特例貸付の借り受け人に対するフォローアップ支援が開始し、今後相談者や支援を必要とする方が増加することが見込まれ、社会福祉協議会内での職員の適切な配置、横断的な取り組みを行い、包括的支援事業の充実と重層的支援体制整備事業を活かした体制を再構築する。 学習支援事業では、単に学習をサポートするだけでなく、悩み等生活相談も含め、講師及び職員がサポートしていく。</p>

評価④

推進懇談会評価

・ヤングケアラーの支援は、第3期計画の核になる取組みだと推察する。対象者数の把握や、市が主催の研修会・勉強会等の実施などを検討されたい。

活動方針の実現に向けた現状の評価

④

・

3

・

2

・

1

評価①

市	事業・取組	交流拠点の充実 【地域政策課】	誰もが身近な地域で気軽に交流活動ができるよう、既存施設等において、各種講座や学級を実施する。
	事業概要	「誰(何)を」「どうする方法で」「どうしたか」「対象」「手段」を記入する ※懇談会の意見があれば反映させる 地元の高齢者・女性・子ども等を対象とした各種学級講座や、栃木市内全域を対象とした栃木市公民館教養講座を開催し、参加者同士の交流や仲間づくりを行った。	
	課題	参加者が固定化される傾向にある。	
	今後の取組方針	より多くの方に興味を持って参加してもらえるよう、魅力ある学習プログラムの企画を行う。(地域政策課)	

市	事業・取組	市社会福祉協議会との連携強化 【福祉総務課】	社協への職員の出向や、障がい児者相談支援センター業務の一部などを市が社協へ委託するなど、社協との連携を強化する。また、広報とちぎに社協が開催する事業の記事を掲載するなど、周知に協力する。
	事業概要	「誰(何)を」「どうする方法で」「どうしたか」「対象」「手段」を記入する ※懇談会の意見があれば反映させる 社会福祉協議会へは生活困窮者自立支援事業への職員出向。成年後見センター運営委託を行った。市へは地域包括支援センター・障がい児者相談支援センターに派遣職員を受け入れた。また、西方社協移転に伴う関係機関との調整に努めた。	
	課題	岩舟地域の協議体を参考に地域力強化を進めることが課題である。	
	今後の取組方針	地域社会の拠点である地区社協と包括支援センターの連携も強化させることで、地域力強化を進める。	

社協	事業・取組	身近でできるサロン事業の体制づくり・支援	高齢者等の閉じこもり防止や子育て家庭の親子の交流、障がい児を持つ家庭の相談や仲間づくり等を目的に各種サロンを実施する。また、地区社会福祉協議会が高齢者や子育て親子を対象として開催するサロンへの補助を行う。
	事業概要	「誰(何)を」「どうする方法で」「どうしたか」「対象」「手段」を記入する ※懇談会の意見があれば反映させる いきがいサロン・・・一人暮らし高齢者等のいきがいづくりを目的に地区社会福祉協議会等の団体に補助を行った(6団体) 子育てサロン・・・子育て家庭の親子の交流や育児に関する情報交換等を目的に地区社会福祉協議会に補助を行った(1団体) 障がい児サロン・・・障がい児を持つ家庭が抱える子育ての相談や指導を行うとともに保護者同士の情報交換・親子の仲間づくりを目的に開催した。(12回 204人)	
	課題	核家族化及び地域コミュニティが希薄化してきている中、地域の中で気の合う仲間などの集まれる場所が更に必要とされている。	
	今後の取組方針	地域の中で気軽に集まれることのできるサロン等を今後も継続して運営できるよう支援していく。新規で立ち上げたい地域があれば社会資源等情報提供し、円滑に立ち上げられるよう後方支援をしていく。	

事業・取組	コミュニティカフェの実施	年齢や障がい等の有無に関わらず、地域のあらゆる住民が自分らしく、それぞれに役割を持ちながら参加できる、地域住民の交流の場や相談の場としてコミュニティカフェ「オレンジカフェ」を開催する。
-------	--------------	----------------------------------------------------------------------------------------------

社協	事業概要	「誰(何)を」「どういう方法で」「どうしたか」「対象」「手段」を記入する ※懇談会の意見があれば反映させる 年齢や障がい等の有無に関わらず、地域のあらゆる住民が自分らしく、それぞれに役割を持ちながら参加できる、「地域共生社会」を目指し、地域住民の交流の場や相談の場としてコミュニティカフェを開催した。 商業施設のフリースペースを活用し毎月開催する他、公民館等活用した出張版のコミュニティカフェも実施した。また、各地域包括支援センターと共催で認知症カフェを実施した。 令和5年度実績 オレンジカフェ 12回 429人 出張版オレンジカフェ 23回 406人 TOCHICOリサイクル 15回 903人 認知症カフェ 68回 1,825人
	課題	コミュニティカフェの主催者と参加者のとの関係でなく、集まったみんなで作っていくようなかたちにシフトする必要がある。
	今後の取組方針	地域の中で誰もが参加できるコミュニティカフェを開催することで、支えあいやつながりが小さい単位でできることにより、細かい網目のセーフティネットを構築できるので継続して推進する。 また、参加者自身が役割を持ちながらコミュニティカフェの主催者や担い手になるようにシフトしていく。

評価②

数値目標		R02	R03	R04	R05	R06	自己評価	点数	評価基準		
市	市民向け講座の数(講座)	目標値	1,745	1,758	1,772	1,786	1,800	3	4	順調に進んでいる	
		実績値	1,089	957	319	1,566			3	概ね順調だが不十分な点が少しある	
社協	まなごサロン参加人数(人)	目標値	90	100	110	120	135	/	2	実施されている部分もあるが、不十分な点が多い	
		実績値	99	96	87	廃止			1	実施方法も含め改善が必要である	
	親子ふれあいサロン参加人数(人)	目標値	1,257	1,300	1,300	500	600		4		
		実績値	237	223	483	565					
	障がい児子育てサロン参加人数(人)	目標値	447	450	450	450	450		2		
		実績値	0	52	185	204					
	コミュニティカフェ参加人数(人)	目標値	1,432	1,500	1,500	1,500	1,500		4		
		実績値	964	1,022	2,523	3,563					

評価③

【取組における成果】【活動方針の実現に向けた課題・方針】	
市	<p>【取組における成果】 市社会福祉協議会との連携については、係長会議を開催し主に重層的支援体制整備事業の共通理解を図れたことは成果としてあげられる。3期計画策定においてもアンケート内容等を協働で検討することができた。</p> <p>【活動方針の実現に向けた課題・方針】 今年度は3期計画策定年度であるため、懇談会の意見を反映させつつ、重層的支援体制整備事業を盛り込んだ計画を策定する。また、岩舟地域の協議体を参考に地域力強化を進めることが課題であるため、地域包括支援センターと連携しながら協議体の設置を進めていく。</p>
社協	<p>【取組における成果】 社会福祉協議会では、サロンやコミュニティカフェを、民間業者との連携・協力を得てスーパーのフリースペースを利用することや地域ボランティアの協力を得ながら開催するなど、地域の社会資源を活かしながら実施している。また、包括支援センターとの共催で認知症カフェを多く設置し、参加者とのコミュニケーションを図り、日常的な困りごとなど、アウトリーチ型の相談支援を行っている。</p> <p>【活動方針の実現に向けた課題・方針】 今後も地域の社会資源を活用し実施していくとともに、参加者自身が主体性を持ちながら活動できるようシフトしていく。また参加者の生活変化等の効果を検証し、行政・社会福祉協議会が一体となって活動・相談等の支援を行っていく。</p>

評価④

推進懇談会評価

- ・サロンの開催にあたり、これまで主体となってきた民生委員、自治会の負担が大きくなっている。必要な事業であることは理解できるが、実施する人への支援を充実させる必要があると感じた。
- ・行政や社協が把握できていない市民活動団体、特に若い世代が中心となり、様々な活動が地域では展開されている。市民活動推進センターなどと連携し、新たな視点で活動に取り組んでいただきたい。

活動方針の実現に向けた現状の評価

4

・

③

・

2

・

1